

まちなか夢工房（要約）

対象期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日（総会資料の事業報告より要約）

1) 概況（売上・工賃・運営のポイント）

- ・令和6年度より基本工賃を1時間200円 300円へ引上げ。利用者増により訓練等給付費は前年比+25%となった一方、工賃増・地域活動拡大に伴う実務負荷もあり、売上は減少。
- ・平均工賃：令和5年度 34,669円 令和6年度 32,252円（-2,417円）。上半期の実績を踏まえ業務配分を再設計し、下半期から新メニュー開発・外販強化・納品先拡大・SNS発信を重点化。

2) 地域連携・新規企画

- ・店頭で「福人マルシェ」を開催（7～8月）。飲食店・ハンドメイド作家・福祉事業所の出店、学生ボランティアの協力により交流機会を創出。
- ・（一社）carnivalworks と連携したチョコレート製品を製造。学生・利用者が主体となり、地域菓子店のパティシエ監修で商品開発・販売を実施。
- ・移行支援事業所「凸ゼミ福島」と共同で新商品開発・店頭販売を実施。利用者から「自分が考えた商品が形になり、お客様に渡る体験ができた」との声。
- ・子ども向け「パン屋さん体験」を企画し、製造～販売までを体験型で提供。継続開催を望む声が上がった。
- ・令和7年2月より、当事者職員の企画で「カフェルシェ」（月2回）を開始。市内外の当事者が安心して語り合えるサードプレイスとしてスタート。

3) 実績（件数等）

項目	実績
職員研修	32件（OJT・外部研修・オンライン等）
イベント出店	25件
コラボ企画	49件
納品	143件（幼稚園・飲食店等）
見学者受入	121名
職場実習・体験受入	53名
ボランティア受入	62名
外部会議等参加	8回（利用者担当者会議等を除く）

4) 利用状況（参考）

- ・平均利用者数：13.2人（出席率平均69%）。年間稼働253日、利用延べ3,339名。
- ・訓練等給付費（年間実績）：令和4年度 21,359,475円 / 令和5年度 23,966,147円 / 令和6年度 32,006,411円（うち処遇改善加算 2,225,400円）。
- ・定員20名、令和7年3月末時点の利用者20名（前年16名）。新規登録11名、退所7名（うち就職1名）。

5) 課題と次年度に向けた重点

- ・工賃引上げと利用者増に伴い、製造・販売・地域活動のバランス最適化が課題。業務設計（人員配置・役割分担・時間配分）を継続的に見直す。
- ・収益改善に向け、(1)新メニュー開発、(2)外部販売・イベントの選択と集中、(3)納品先の拡大、(4)SNS発信強化を継続。
- ・当事者が企画・運営に参画する「居場所」機能（カフェペルシェ等）を定着させ、相談しやすい関係性づくりと地域のつながりを強化。
- ・地域の生産者・事業者・教育機関・他事業所との共創（共学・共労・共楽・共生）を通じ、若者がチャレンジできる場としての福祉事業所活用を拡大する。

上記は総会資料「令和6年度 まちなか夢工房 事業報告」（該当ページ）を基に要約。

就労継続支援B型 ベーシック憩（要約）

スローガン：共学・共労・共楽・共生 / テーマ：ジェントルティーチング

1) 利用状況・体制

- ・登録者：24名。1日利用者平均17.92人、年間利用率76.41%（前年度73.92%）。
- ・班編成：お菓子班8名、木工班7名、パソコン班8名。平均年齢35.1歳。療育手帳19名、精神福祉手帳5名。
- ・職員体制：お菓子班 / 工房クリエイティブ班 / ひまわり班で支援。年度中に正規1名、パート1名の退職、利用退所者1名。

2) 主要な販売・連携（利用者の社会参加・工賃向上に直結）

- ・いちい常設販売（渡利店ほか複数店舗）や展示販売会参加等を継続。年間売上約92万円（前年比-11万円）だが、委託販売では23事業所中1位を3年連続で維持。
- ・わたり福祉会（はなしのぶ）での無人販売（月2回搬入、月平均1万円）、ダイハツ松川本社への納品（月2回、月平均9千円）など、定期販路を維持・強化。
- ・農福連携（宍戸果樹園：摘果・袋掛け・収穫等）や施設外就労を実施し、実作業を通じた就労経験と工賃向上につなげた。
- ・船山工業で施設外就労（月3回予定）。利用者2名と昼食準備（カレー作り等）を行い、工程理解と安全配慮のもと継続。

3) 運営面の課題（報告書記載の論点）

- ・就労会計は、訓練等給付費と授産収益のバランス改善が引き続き課題。福祉的理念を前提にしつつ、企業的視点での売上向上・原価管理が必要。
- ・毎日のケース会議等により利用者特性の共通理解を促進し、支援の質向上と職員のソーシャルスキル向上を図った。

4) 利用実績（年間）

- ・年間稼働262日、利用延べ4,491人（前年度4,198人）。
- ・訓練等給付費（就労Bの推移）：令和4年度 35,840,660円 / 令和5年度 37,389,900円 / 令和6年度 38,383,986円。

5) 年間行事・研修等（抜粋）

- ・花見山散策、ひまわり植樹祭、夏祭り・展示販売会参加、防災訓練、研修旅行、利用者自治会研修（虐待防止法・触法等）、新商品開発イベント等を実施。
- ・苦情・相談は対人関係面が中心だが、都度確認と誠実な対応により外部機関への訴えはなし。事故10件、ヒヤリハット13件、苦情13件（報告件数）。

上記は総会資料「令和6年度 ベーシック憩 事業報告」等を基に要約。

相談支援センター リアン（要約）

委託相談・計画相談・一般相談の3本柱（令和6年度）

1) 体制と役割

- ・職員5人体制（主任相談支援専門員、精神保健福祉士、公認心理師等）。福島市の委託相談支援センターとして、指定地区内の18歳以上の本人・家族・地域包括・近隣住民・医療等から相談を受け付ける。
- ・令和6年度から「精神のみ」から「3障害（精神・身体・知的）」の委託相談支援センターへ拡充。最初の窓口として、問題整理が難しい困難ケースも多い。

2) 主な取り組み

- ・基本相談（電話・訪問・来所）に加え、区分認定調査（81項目アセスメント）、差別相談対応、家族会（精神）等を実施。
- ・当事者雇用のピアサポーター（3名）とともに、月2回のピアカウンセリングを開催（第2・第4金曜）。
- ・相談員・福祉職員不足への対応として、大学実習生受入（福島学院大学等）や傾聴ボランティア受入を継続し、人材育成・確保につなげた。

3) 計画相談・一般相談（数値の骨子）

- ・計画相談：障がい者110名、児童65名（令和6年4月時点）。相談員不足が続き、導入率向上・質向上が課題。
- ・毎週水曜のランチミーティング（困難ケース会議）で、相談支援専門員の質向上とバーンアウト予防を狙う（市内相談員・事業所職員も参加可）。
- ・一般相談（地域移行・地域定着等）は令和6年6月から申請・開始。令和6年度の一般相談実績：医療保護観察3名、長期入院者4名、贖罪1名、計8名（定着相談はなし）。

4) 研修・地域連携（抜粋）

- ・地域包括や民生委員等との連携強化として、家族・当事者説明会（講演＋茶話会）を複数回開催。発達障害、統合失調症、地域生活、家族の関わり方、福祉サービス等をテーマに実施。
- ・外部研修依頼にも対応（例：松川ケアマネ交流会、民生児童委員研修会、医大看護学部等）。
- ・差別相談（障がいを理由としたもの）の報告は令和6年度はなし。

上記は総会資料「相談支援センター リアン 事業報告」を基に要約。

ひまわりプロジェクト（要約）

令和6年度の活動まとめ（種回収・販売・連携）

1) 重点成果（全体像）

- ・年間を通して連携強化が進み、職員だけでなくメンバー（利用者）も年間作業を把握し、自主的に行動する場面が増加。
- ・生活クラブ生協から委託された販売支援の注文書データ入力では、パソコンが得意なメンバーが中心となり作業を担った。
- ・全国から送付されるひまわり種の数量が気候等で変動し、油の製造量・工賃（売上）に影響する点が課題。福島産種の混合販売に向け、NPO法人シャローム等と情報共有を強化予定。

2) 数値ハイライト

- ・種の回収量：総合計 約800kg。
- ・全国栽培協力の発送・戻り：合計 送163 / 戻146。
- ・「ひまわりの種配布」：生活クラブ生協（1袋6粒 + 栽培小冊子）× 5,800セット配布。グリーンコープは125ヶ所、配布粒数45,146粒。

3) 売上（ひまわり油・煎餅）

区分	金額（円）
煎餅売上合計	928,750
ひまわり油売上合計	1,183,800
売上合計	2,112,550

4) 今後の方向性（要約）

- ・販売価格・共同購入のラインナップ見直し等、継続してきた強みを維持しつつ、工賃向上につながる商品開発（ひまわり油＋みんなの煎餅＋ ）を検討。
- ・地域の賛同者、NPO法人シャローム、シャローム福祉会、全国の協力者とともに、福島県内での栽培・回収基盤を継続し、「つなぐ 未来へ」をテーマに活動基盤づくりを進める。

上記は総会資料「ひまわりプロジェクト 令和6年度 報告」を基に要約。